

立命館大学大学院応用人間科学研究科 / 立命館大学心理・教育相談センター主催
公開講座 シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編

立命館創始 140 年
学園創立 110 周年
心理・教育相談センター開設 10 周年
記念

企画コーディネート：神谷雅子（京都シネマ代表、産業社会学部・教授） / 荒木穂積（応用人間科学研究科・教授） / 中村正（応用人間科学研究科・教授）



ささえる、生きる、そだつ — 家族の絆と発達障がい —



10/23(土)

2回上映

星の国が孫だ!

〜「自閉症」児の贈りもの〜

10:00(〜11:35) 上映

11:40(〜12:20) 対談 槇坪夢鶴子監督 × 荒木穂積

12:40 舞台挨拶 槇坪夢鶴子監督

13:00(〜14:35) 上映



10/24(日)

モーツァルトとクジラ

10:00(〜10:30) 解説 徳田完二

10:30(〜12:04) 上映

10/25(月) 彼女の名はサビーヌ

10:00(〜10:30) 解説 谷晋二

10:30(〜11:55) 上映



会場：京都シネマ (四条烏丸下ル西側 COCON 烏丸 3F)

参加費：一般 ¥800 立命館大学教職員・学生 / 京都シネマ会員 ¥500

当日 9:40 よりチケットの販売を開始します (事前の受付及び整理券の配布はございません)

* 駐車場・駐輪場がございませんので、ご来場には公共交通機関をご利用下さい。
* 満席の場合ご入場を制限させていただくこともございますのでご了承ください。

お問い合わせ先

立命館大学独立研究科事務室

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

TEL: 075-465-8370

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/gsshs/index.html>

主催：立命館大学大学院応用人間科学研究科、立命館大学心理・教育相談センター

共催：京都シネマ、立命館大学人間科学研究所

協力：アップリンク、アートポート、パオ

本企画は、立命館創始 140 年、学園創立 110 周年、APU 開学 10 周年記念の補助を受けております

この公開講座は、映画が表象する「関係性の様態」を読み解きながら、「人間と社会の現在」について考える機会にしたいと願い企画されています。これまで、シリーズ1「現代家族の不安と再生」、シリーズ2『『裁き』のその後—加害といかに向き合うか』、シリーズ3「親密だから見えないこと—『羅生門の現実』を生きる」、シリーズ4「生きがたさのなかで—子どもと希望」、シリーズ5「ひとりだけど、ひとりじゃない—虚構というリアル」を企画してきました。11月13日からはシリーズ6「今日の夕食何にしようか?—食べることの政治」の開催を予定しております。

さて、今回の企画のテーマは特別編として、「ささえる、生きる、そだつ—家族の絆と発達障がい—」です。自閉症やアスペルガー症候群をアツクった映画の中から親子関係、兄弟関係、夫婦関係などを「家族の絆」という視点から考えます。発達障がいのある人々の生活や世界から出てくる人間性を通して、あらためて「親子とは」「兄弟姉妹とは」「夫婦とは」ということを考えてみませんか。

上映後の対談や講義とあわせて、時には奇想天外で、たまには刺激的な、どちらかといえは胸さわぎのする発想に学びつつ、私たちの視界を広げる試みとして位置づけています。この企画は、結論のないあるいは結論がひとつではない対話を楽しむ「道楽」としてのシネマ人間学を楽しもうとするものです。

星の国からようこそ、あなたに会えてよかった

10月23日(土) 『星の国から孫ふたり〜自閉症児の贈りもの〜』
2009/日本/95分/バオ

企画・製作・監督：横坪夢鶴子 / 出演：馬淵晴子、加藤忍、比留間由哲、小笠原町子、乾貴美子、小林桂樹

映画『星の国から孫ふたり』は、自閉症という見た目にはわかりにくい違いのある子ども達を、懸命に育てているご家族の視点から理解を深める、心温まる映画です。障がいのある方にも、優しく暮らせる社会は、誰にとっても豊かな社会です。日本には、無意識のうちに同じもの、同じ生き方を求める文化があります。しかし本来、人それぞれの違いや良さを発見し、認め合うことが大切です。ぜひ一度見ていただきたい映画です。



すこしだけ不器用でちょっとだけ遠回り。でも、きっと幸せは見つかる

10月24日(日) 『モーツァルトとクジラ』

2004/アメリカ/94分/アートポート

監督：ペター・ネス / 出演：ジョシュ・ハートネット、ラダ・ミッチェル、ジョン・キャロル・リンチ

アスペルガー症候群のために平穏な日常生活を送ることができないドナルド(ジョシュ・ハートネット)は、同じ障害を持つ仲間たちが集まる集会でイザベル(ラダ・ミッチェル)と出会う。率直で感性豊かな彼女も同じ悩みを抱えており、2人は恋に落ちる。しかし、相手を愛する気持ちとは裏腹に、互いを傷つけてしまひ……。障害を抱えながらも人生をともに歩もうとする2人の姿が胸を打つ。



女優サンドリーヌ・ボネールが自閉症の妹に贈る「映画」という名の「抱擁」

10月25日(月) 『彼女の名はサビーヌ』

2007/フランス/85分/アップリンク

監督・脚本・撮影：サンドリーヌ・ボネール / 出演：サビーヌ・ボネール

『仕立て屋の恋』などフランスを代表する女優サンドリーヌ・ボネールが、自閉症と25年間闘い続けた実の妹の姿を追ったドキュメンタリー。初の長編監督として脚本・撮影もこなしたサンドリーヌは、妹サビーヌの若いころの姿から、不適切な診断を経て施設に暮らすはめになった現在までの変化を慈愛に満ちた姉の視点から映し出す。自閉症患者ケアの問題に一石を投じると同時に、容赦ない悲劇に見舞われた姉妹の姿に心を揺さぶられる。



ゲスト・講師プロフィール



・横坪夢鶴子(まきつぼたつこ) 監督・・・1940年広島に生まれる。1985年に企画制作バオ設立。2001年には映画『老親ろうしん』で第17回山路ふみ子映画賞福祉賞を受賞。2003年『母のいる場所』を第16回東京国際女性映画祭出品。「いのち、愛、共生(きょうせい)」をテーマに映画を制作する。



・荒木穂積(あらかほづみ)・・・産業社会学部・大学院応用人間科学研究科教授。専攻は発達心理学。研究テーマは、人間発達における質的転換期の研究。『発達診断と障害児教育』(青木書店)、『乳幼児期の自閉症スペクトラム障害—診断・アセスメント・療育』監訳(クリエイツかもがわ)。



・徳田完二(とくだかんじ)・・・大学院応用人間科学研究科教授。心理・教育相談センター長。専攻は臨床心理学。研究テーマは、イメージ技法、フェルトセンス、リラクゼーション技法、学生相談、青年期の発達。『収納イメージ法』(創元社)、『心理臨床関係における身体』(創元社)



・谷晋二(たにしんじ)・・・文学部・大学院応用人間科学研究科教授(2010年10月着任予定)日本行動療法学会専門行動療法士。研究テーマは、発達障がいのある子どもとその家族の包括的支援、応用行動分析における対人援助。『自閉症、発達障害児のためのトイレトレーニング』翻訳(二瓶社)。

10/23(土)24(日)25(月)限定公開!

参加費：一般 800 円 / 立命館大学教職員・学生、京都シネマ会員 500 円

*事前予約は受付ておりません。当日劇場窓口にて整理番号付き入場券をご購入下さい。

京都シネマ
KYOTOCINEMA

四條烏丸下る西側 COCON 烏丸 3F
TEL:075-353-4723
<http://www.kyotocinema.jp>

地下鉄四條駅
烏丸線
大丸

住友信託銀行
京都シネマ
(COCON 烏丸 3F)
滋賀銀行

